

# すみゆめプロジェクトの「これまで」と「これから」

【問合せ】文化芸術振興課総合的芸術祭・すみゆめ担当 ☎5608-2822

## これまで実施した中で反響があった企画

数ある企画の中で、特に大きな反響があった企画をご紹介します。

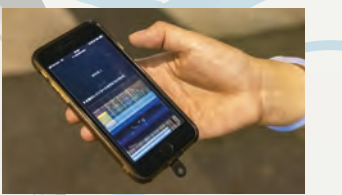
### ファスナーの船／鈴木康広(2018年～2021年)

飛行機の窓から東京湾を見下ろしたときに、海を進む船と航跡がファスナーで海(地球)を開いているように見えたことから生まれた。古くから都市の境界線という役割を担ってきた隅田川を「ファスナーの船」が航行し、水面を開きながら対岸をつないでいく。YouTubeで公開した動画は15万回以上再生され、昨年にはブラジルの邦人向け番組でも紹介された。



### 謎音“水底から鳴る鐘”／謎音研究所(2024年)

向島界隈を舞台に繰り広げられた没入型のツアーパフォーマンス。参加者は、音を聞くことで失われた人もいるという「謎の音」を解明する調査員として、スマートフォンを頼りに音声ガイドやパフォーマーに導かれながら街全体を劇場として回遊する。「日常との境目の曖昧さを体験できる」と参加者から好評を博した。



### PING PONG PLATZ／PPP collective(2023年～)

卓球台を区内の屋外公共空間に置くことで、人々が集まる場所を作るアートプロジェクト。昨年はキラキラ橋商店街の空き地に設置し、端材を使った卓球ラケット制作ワークショップ等も開催。ベルリン(ドイツ)を中心としたヨーロッパの公園では、屋外に設置した卓球台が新たな出会いを生み、交流、学びを促す社会的な機能を果たす。



# 今年もすみゆめ始まっています!

12月21日(日)まで

プロジェクト企画を11件と、主催企画を2件開催します。同時期には区内で多くの「ネットワーク企画」も開催されます。事前申込みが必要な公演やワークショップ等もあるので、詳細は今号8面「すみゆめ通信」(「北斎を知る」内)か、イベント公式HPをご覧ください。

◆ イベント公式 SNS もチェック! ◆



【写真上】KOSUGEI-I6 Rとどんと! 巨大紙相撲「北斎すみゆめ場所」  
【写真下】すみゆめパレード 遊びをせんとや集い付む ※昨年度撮影

## どんな特徴があるの?

こんなところでも! 区内の様々な場所がアート会場に!



すみゆめのキーワードである隅田川や葛飾北斎にちなんだ場所のほか、企画に合わせて銭湯や福祉施設、区施設で開催。さらに、公園や寺社、商店街等の誰でも入れる公共空間や、空き工場や旧校舎等でも行い、その場所の歴史や魅力を引き出し、にぎわいをもたらしています。

◀「共に在るところから」(藝と、ファンタジア!ファンタジア!事務局/2022年)「地域福祉とアートのつながりを考える展覧会」と題し、区内で100年にわたり保育事業を続ける興望館で開催。施設に保管された歴史資料と、そこから着想を得た作品を展示した。

作品を創って出演も! 参加体験型の企画がある!



アーティストと一緒に体を使って自分なりの表現を探るワークショップ型の企画や、子どもたちがプロのクリエイターとアイデアを出し合って舞台を創り上げ、その舞台に「出演者」として参加する企画もあります。公共空間で人々の交流を促すようなプロジェクトもあり、普段できないことを体験できます。

▶「すみだみらいアーティストプロジェクト“Hawk's eye 北斎の見た世界”」(SPUTNIK/2024年)子ども対象の舞台創作プロジェクト。ダンス・歌・演技等、様々な要素を盛り込んだ舞台作品をプロ指導の下、子どもたちのアイデアとともに創作する。

## こんな成果がありました

“すみだでしかできない” 多彩な企画を毎年開催!



すみだの地域特性をヒントに、参加団体による多彩な解釈がダンスや演劇作品等に落とし込まれ、すみだならではのアート企画が誕生しました。中には、地域課題に向き合うことを出発点にした企画も。また、各企画の実現に向けて事務局が「伴走支援」を行い、照明や音響等の技術的な相談から、公共空間の使用申請まで幅広くサポートします。10年間の経験の蓄積や関係構築が、多くの企画に活かされています。

◀「両国橋アートセンター・ストリートピアノすみだ川」(もんでん/2017年～2024年)隅田川テラスにピアノを設置し、誰でも自由に演奏や鑑賞できる場を作り、来訪者同士の交流を生み出した。常駐する「演奏サポーター」が伴奏したり、打楽器でリズムを加えたりする。時には大道芸とのコラボも。

◀「Agoraphobia」(Token Art Center/2021年)7組のアーティストが会場を回遊しながらパフォーマンスし、周囲の風景や参加者の行動と混ざり合うことで生まれる「分からないもの」との遭遇を体験する企画。隅田公園そよ風ひろばや隅田川を使用したため、複数の管理者との交渉や申請手続を事務局がサポートした。

伴走支援により企画を実現!

すみゆめ発の作品が評価される



企画実現に向け、事務局の手厚いサポートが受けられることなどが認知され、プロアーティストからの応募が増加しています。また、舞踏公演「そぞろ」は、国内の大手英字新聞に大きく取り上げられ、台湾に招かれて公演を行いました。さらに、映画「煙突清掃人」は、文化庁の育成事業への選定や、映画祭での受賞を果たしています。すみゆめ発の作品が地域の枠を超えて国内外で紹介され、注目を集めています。

◀舞踏公演「そぞろ」(AGAXART/2024年)「北斎漫画」とすみだの文化を融合させた斬新な舞踏作品。すみだの工場・銭湯・長屋等から刺激を受けて振り付けと音楽を創作。過去と未来、北斎の魂が交差し、すみだの隠された魅力と迫力を体感できる。

◀映画「煙突清掃人」(ハイドロブラスト/2024年)江戸時代から続いてきた銭湯文化に関わる職人たちの技術を伝承すべく、国内でも減っている「煙突清掃人」取材。その手仕事を軸に銭湯文化の日常を描くコミュニティ映画を製作・上映した。

語るうえで外せない!

## すみゆめ4つのキーワード

### 1 隅田川

昔から物語の舞台となり、催事等で人々が集う隅田川。江戸文化を育み、都市の流通を支えてきたこの川にまつわる文芸や芸能、歴史をヒントに、美術・舞台作品等が企画され、川や船、テラスなど屋内外の様々な場所で企画が行われています。



◀「すみだ川ディスコwithミラーボールカー」(すみゆめ実行委員会ほか/2018年)車をミラーボールに見立てた“ミラーボールカー”が光を放ち、隅田川をディスコに変えた。

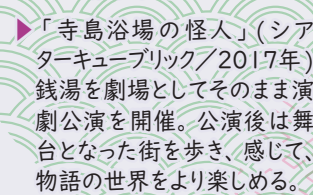


▶「隅田川を眺めるプロジェクト」(BUGHAUS/2020年)過去の治水対策の名残で一部が残る「カミソリ堤防」をパークランナーに見立て、パークランナーが飲み物を提供した。

### 2 葛飾北斎

### 3 地域資源

現在のすみだを形成してきた、“すみだならではの”ユニークなモノ・コト(職人・暮らし・歴史・町並み等)にスポットを当て、改めて見直し、その魅力を引き出すような企画が続々登場しています。また、隠れた地域資源等をテーマにした企画も生まれています。



▶「寺島浴場の怪人」(シアターキューブリック/2017年)銭湯を劇場としてそのまま演劇公演を開催。公演後は舞台となった街を歩き、感じて、物語の世界をより楽しめる。



◀「どんとこ!巨大紙相撲」(すみゆめ実行委員会/2019年)身長180cmの個性豊かなダンボール製巨大力士を「巡業」で創作し、最強力士を「本場所」で決する。

### 4 ネットワーク

参加団体同士の交流や情報交換、学び合いの場として、「寄合」を月1回開催しています。「寄合」が育んだ参加者同士のつながりによって、互いの企画での協働が生まれ、異なる分野のアーティストによる企画が発表されることもあります。



▶興望館で開催した「寄合」の様子。各企画の進捗状況を共有し、運営上の課題などを話し合う。発表会場として使えるような場所の下見を兼ねることもある。

